

平成23年11月 2 日

各 位

会 社 名 トレイダーズホールディングス株式会社
代表者名 代表取締役社長 金丸 勲
(JASDAQ・コード 8704)
問合せ先 取締役 新妻 正幸
(TEL 03-4330-4700 (代表))

特別損失の発生および業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、平成 24 年 3 月期第 2 四半期累計期間（平成 23 年 4 月 1 日～平成 23 年 9 月 30 日）決算において特別損失を計上するとともに、最近の業績動向等を踏まえ、平成 23 年 5 月 12 日に公表いたしました平成 24 年 3 月期第 2 四半期累計期間の連結業績予想および平成 24 年 3 月期通期の連結業績予想ならびに平成 23 年 5 月 31 日に公表いたしました平成 24 年 3 月期第 2 四半期累計期間の個別業績予想および平成 24 年 3 月期通期の個別業績予想について修正することとしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

1. 特別損失の発生について

(1) 本社事務所移転費用（連結・個別）

当社グループは、平成23年 8 月に本社事務所の移転を行いました。この本社移転に伴い、当第 2 四半期累計期間において発生した固定資産除却損、移転費用等を、特別損失として連結決算において28百万円、個別決算において14百万円を計上する見込みとなりました。

なお、本社移転は当社グループ全体のコスト削減の一環として行ったもので、一時損失として多額の特別損失を計上する見込みとなりましたが、今後は年間約 1 億円の本社事務所家賃の削減が見込めます。

(2) 『OASiS』サービス終了に伴うソフトウェア等の減損（連結）

当社連結子会社であるトレイダーズ証券株式会社（以下、「トレイダーズ証券」といいます。）では、平成23年 8 月26日をもって、証券取引事業におけるリアルタイムSPANシミュレーションシステム『OASiS』のサービスを終了いたしました。これに伴い、同サービスに使用していたソフトウェア等について減損損失20百万円を特別損失として計上する見込みとなりました。

(3) 『GIT』サービス終了に伴い発生したシステム解約費用（連結）

当社連結子会社であるトレイダーズ証券では、平成23年 3 月31日をもって海外指数先物取引システム『GIT』のサービスを終了し、第 1 四半期累計期間においてシステム費用の解約金を特別損失として 7 百万円計上しましたが、第 2 四半期累計期間までに追加解約金 8 百万円が発生いたしましたので特別損失として計上する見込みとなりました。

(4) 関係会社株式評価損（個別）

当第２四半期会計期間末において、当社の連結子会社である 트레이ダーズ証券に対する投資額の実質価額が当社帳簿価額と比較して著しく乖離する状況になったため、減損処理の検討をいたしました。当社はこれまで、期初における 트레이ダーズ証券の利益計画の達成により、同社の純資産額の回復可能性が見込めると判断しておりましたが、当第２四半期累計期間および通期の業績見通しを修正しました結果、当期における回復可能性は見込めないと判断したため、当社の関係会社株式の帳簿価額を、同子会社の当第２四半期会計期間末における純資産額まで減損することといたしました。以上の減損処理により、関係会社株式評価損2,907百万円を特別損失として計上する見込みとなりました。

２．連結業績予想値の修正

(1) 平成24年３月期第２四半期累計期間の連結業績予想修正（平成23年４月１日～平成23年９月30日）

（単位：百万円）

	営業収益	営業利益	経常利益	四半期純利益	１株あたり 四半期純利益
前回発表予想（Ａ）	2,000	△180	△210	△230	△964 円 12 銭
今回修正予想（Ｂ）	1,570	△321	△348	△468	△1,962 円 07 銭
増減額（Ｂ－Ａ）	△430	△141	△138	△238	—
増減率（％）	△21.5％	—	—	—	—
（ご参考）前期第２四半期実績 （平成23年３月期第２四半期）	1,949	△688	△713	△695	△2,915 円 69 銭

< 修正の理由 >

当第２四半期累計期間の連結営業収益は、期初予想2,000百万円から430百万円減少し、1,570百万円となる見込みです。これは主に、トレーダーズ証券における外国為替取引事業ならびに証券取引事業の業績が低調に推移したことによるものです。外国為替取引事業においては、外国為替市場の円高基調が続き、相場が大きく急変する場面はあったものの総じてドル円相場は膠着する期間が長く続いたことで、収益機会が減ったことに加え、８月以降のレバレッジ規制による証拠金率の引き上げの影響により、取引量が予想に至らなかったため、予想収益を下回る見込みとなりました。また、証券取引事業においては、東日本大震災以降、一時サービスを停止していた日経225先物取引・日経225先物mini取引がサービス再開以降も想定以上に取引高が縮小したことで、受入手数料は大きく減少し、予想収益を大きく下回る見込みとなりました。

連結営業損失は、販売費及び一般管理費が営業収益に比例する変動費用の減少および経費削減の合理化を行ったことで計画より289百万円減少する見込みとなり、期初予想180百万円を141百万円下回る321百万円となる見込みです。

連結四半期純損失は、期初予想230百万円を238百万円下回り、468百万円となる見込みです。これは経常損失の下方修正に加えて、本社移転関連費用が見込額より15百万円増加したことおよび、期初に予定していなかった『FXスタジアム』、『GIT』、『OASiS』のサービス終了に伴い発生した固定資産等の減損ならびにシステム解約費用109百万円等を特別損失として計上することによるものです。

(2) 平成24年3月期通期連結業績予想修正（平成23年4月1日～平成24年3月31日）

(単位：百万円)

	営業収益	営業利益	経常利益	当期純利益	1株あたり 当期純利益
前回発表予想 (A)	4,800	330	270	250	1,047 円 95 銭
今回修正予想 (B)	3,200	△60	△100	△260	△1,089 円 87 銭
増減額 (B-A)	△1,600	△390	△370	△510	—
増減率 (%)	△33.3%	—	—	—	—
(ご参考) 前期実績 (平成23年3月期)	4,275	△942	△995	△2,005	△8,407 円 09 銭

< 修正の理由 >

連結営業収益は、期初予想4,800百万円から1,600百万円減少し、3,200百万円となる見込みです。これは当第2四半期累計期間の実績が予想を430百万円下回ったことに加えて、第3・第4四半期の予想を当第2四半期までの実績に鑑みて修正を行うものです。第3・第4四半期では、外国為替取引事業における『みんなのFX』の収益率および予想取引量をレバレッジ規制後の実績水準を鑑みて見直しを行い、また、平成23年8月よりサービス提供を開始しました『みんなのバイナリー』の収益率も稼働後の実績を考慮して予想値の引下げを行いました。証券取引事業におきましては、日経225先物取引・日経225先物mini取引について現状の収益動向を考慮した修正を行っております。販売費及び一般管理費は、営業収益の減額修正に伴い取引関係費等の変動費用が減少することや、今後の経費削減の合理化の推進から期初予想に比べて減少する見込みです。

以上の予想修正の結果、連結営業損益は、期初予想330百万円の利益から390百万円下回る60百万円の営業損失となる見込みです。

連結当期純損益は、経常損益までの修正に加え、当第2四半期累計期間に発生した特別損失149百万円を計上することにより、期初予想250百万円の利益から510百万円下方修正し、260百万円の当期純損失となる見込みです。

3. 個別業績予想値の修正

(1) 平成24年3月期第2四半期累計期間の個別業績予想修正（平成23年4月1日～平成23年9月30日）

(単位：百万円)

	営業収益	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株あたり 四半期純利益
前回発表予想 (A)	150	△75	△96	△143	△599 円 43 銭
今回修正予想 (B)	180	△50	△76	△3,101	△13,001 円 54 銭
増減額 (B-A)	30	25	20	△2,958	—
増減率 (%)	20.0%	—	—	—	—
(ご参考) 前期第2四半期実績 (平成23年3月期第2四半期)	200	△34	△41	△26	△112 円 97 銭

< 修正の理由 >

当第2四半期累計期間の個別営業収益は、期初予想150万円から30百万円増加し、180百万円となる見込みです。これは、子会社から収受する業務支援料の増額改定を期中に行ったことによるものです。

個別営業損失は、上記の業務支援料の増額に伴い、期初予想75百万円から25百万円減少し、50百万円となる見込みです。

個別四半期純損失は、期初予想143百万円から2,958百万円増加し、3,101百万円となる見込みです。これは主に、「1.特別損失の発生について(4) 関係会社株式評価損（個別）」に記載のとおり、当第2四半期累計期間において当社の連結子会社である 트레이ダーズ証券 に対する投資額の減損を行い、2,907百万円の関係会社株式評価損を特別損失として計上することによるものです。

(2) 平成24年3月期通期個別業績予想修正（平成23年4月1日～平成24年3月31日）

（単位：百万円）

	営業収益	営業利益	経常利益	当期純利益	1株あたり 当期純利益
前回発表予想（A）	300	△132	△174	△222	△930 円 58 銭
今回修正予想（B）	540	100	60	△3,020	△12,659 円 29 銭
増減額（B－A）	240	232	234	△2,798	—
増減率（％）	80.0%	—	—	—	—
（ご参考）前期実績 （平成23年3月期）	388	△73	△95	△1,022	△4,286 円 29 銭

< 修正の理由 >

個別営業収益は、期初予想300百万円から240百万円増加し、540百万円となる見込みです。これは、子会社から収受する業務支援料の増額改定を第3四半期以降に反映させたためです。

個別営業損益は、上記の業務支援料の増額に伴い、期初予想132百万円の損失から232百万円増加し、100百万円の営業利益となる見込みです。

個別当期純損失は、期初予想222百万円から2,798百万円下方修正し、3,020百万円となる見込みです。これは主に、経常損益までの下方修正を反映したことに加え、第2四半期累計期間に当社の連結子会社である 트레이ダーズ証券 への投資額の減損を行い、2,907百万円の関係会社株式評価損を特別損失として計上することによるものです。

以上

ご注意：本資料に記載しております業績に関する予想値は、いずれも本資料の発表日現在において入手可能な情報による判断及び仮定に基づくものであり、実際の業績は当該予想と異なる場合がありますので、予めご了解ください。